

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 1月 31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390101261		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム城南スマイル ～ うらら		
所在地	熊本県熊本市南区城南町下宮地397-2番地		
自己評価作成日	平成 28 年 1月 31日	評価結果市町村受理日	平成28年 6月 6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アクシス
所在地	熊本県熊本市南区八幡9-6-51
訪問調査日	平成28年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

熊本市の南側に位置する城南町隈庄地区の商業施設とのどかな田園が共存する地区の一角にあるグループホームです。地熱を利用した高気密・高断熱で年中快適な温度、採光の工夫により明るく過ごして頂ける建物です。年末には地域の方々やご家族にも参加協力して頂き「餅つき大会」を開催し楽しいひと時を過ごしています。地区の行事（パークゴルフ、どんどや、一斉掃除等）にも参加し地域の方とのふれあいの機会を大切にしています。「利用者本位、常に相手の立場になって」を念頭に思いやりの気持ちを大切にお一人おひとりが安心して穏やかに過ごして頂けるよう優しくそっと寄り添う支援を行います。そして、自分のペースで自分らしくその方の思いを大切に役割と楽しみのある暮らしを支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、店舗が建ち並ぶ国道から少し入った田園風景の中にあり、そこは澄んだ空気と利便性が共存し、散歩のついでに買い物を済ませることが出来るという恵まれた環境にあります。また、地熱を利用した高気密・高断熱工法の建物は、年間を通して室温の変化が少なく、利用者にとっても優しい住環境を提供しています。また事業所は、地域との交流にも積極的に取り組んでおり昨年末の餅つきでは、区長の応援のもと地域の子供から大人までの方が大勢参加され、大変盛り上がったそうです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に理念を唱和行うことで職員としての心構えを再確認し共有実践に努めている。	「利用者本位～常に相手の立場になって～」という基本理念と5項目から成る行動の指針を掲げ、毎日の朝礼時に唱和を行っている。管理者は「自分の親と思ってサービスに取り組み、ここに預けて良かった」と思ってもらうことが目標と話しており、唱和の結果としても以前よりも利用者ひとりひとりに対する気付きが出て来るようになったと感じている。職員からは、笑顔を絶やさず接すること、報告をしっかりと行い、利用者のイヤなことは絶対にしないこと、報告をしっかりと行い利用者の状況の共有が、利用者本位のサービスに繋がるという話が聞かれた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（パークゴルフやどんどや等）、一斉清掃に参加し交流を深めている。時々近くの保育園の園児の訪問があっており交流出来ている。区長、民生委員、消防団、婦人会の皆様の協力を頂くことが出来ている。	パークゴルフ大会には入居者と一緒に参加しており、その後の親睦会にも職員が数名参加し、交流を行っている。また、区の子供会が主催するどんどやや地域の一斉清掃・水路廻りの草取りなど、地域住民の一人として参加している。昨年末の餅つき大会は区長の応援のもと、地域の方が子供から大人まで大勢参加され、大盛り上がりだったそうです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問された方には、認知症の方の特徴や対応の方法などを理解しやすく説明を行っている。気軽に相談して頂ける様な雰囲気づくりに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しておりそこで出た意見を活かしている。地域の方々にも参加協力して頂いて年末には餅つき大会を開催し大盛況に終わることができた。	基本的には、奇数月の第4水曜日を予定しているが、メンバーの都合なども考慮した上で決定するようにしている。外部からのメンバーは区長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者の家族となっている。会議の内容としては、利用状況や利用者の状態、事業所の取り組みなどについて報告し、質疑応答を行っている。	

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	熊本市から月1回介護相談専門員が来設され利用者の皆様との会話の中で気づかれた事をお尋ねしケアサービスにつなげている。また、「ささえりあ」から必ず運営推進会議に参加して頂いており情報やアドバイスを頂いている。	運営推進会議への市担当者のお席はないが、地域包括支援センターとは良好な関係を築いており、情報交換や研修会などで交流を行っている。また事業所は、市が派遣する介護相談専門員の受け入れを行っており、サービスの質の向上を目指している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症についての勉強会を開催し身体拘束とは何か、言葉の抑制も拘束であることを学ぶと共にケアの振り返りを行い「身体拘束しない」ケアの実践に取り組んでいる。	認知症についての勉強会をひと月おきに行っており、言葉による抑制も含めて身体拘束とは何かを学んでいる。その他、グループ施設との合同勉強会も行っている。職員からは、車イスをテーブルに深く押し込み立ち上がれないようにすることや、思いを無視することも含まれると思うという意見が聞かれた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、勉強会を行うことで虐待について学び、お互いが観察しあいながら見過ごすことが無いように虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来る限り外部研修に参加しその報告をミーティングや勉強会で他のスタッフにも伝えている。必要に応じて活用できるよう様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心して頂ける様、理解納得されるまでゆっくり説明を行っている。尚、話しやすい雰囲気努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には声掛け行い意見や要望をお尋ねする等気軽に馴染みやすい雰囲気作りに努め信頼関係につなげ運営に反映させている。家族会の中でも意見交換を行い意見や要望を出して頂き、早期解決に努めている。	事業所には家族会があり、年に1～2回開催している。意見交換を行い、要望などの聞き取りを行っている。その他、日頃の面会時を利用して声かけを行い、意見や要望また苦情などが言いやすい雰囲気づくりにも取り組んでいる。第三者苦情処理機関のポスターも見やすい玄関ホールに掲示している。また、利用者本人からの意見や要望については、介護相談専門員を受け入れ、聞き取りを行っている。	家族からすれば、言いくさや遠慮がちになることも少なからずあると思います。今後とも、何でも言える環境作りに取り組み、サービスの質の向上に繋がって欲しいと思います。

11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より意見や提案が出しやすいよう雰囲気作りに努めている。 又、ミーティングの際、誰もが意見や提案を出しやすいような雰囲気作りに努め反映させている。	管理者からは、最初はあまり意見が出ず、一方的になりがちだったようですが、話しやすい雰囲気作りを進めた結果、現在では意見が出るようになったそうである。職員からも、話しやすい雰囲気であるとの声が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には年2回の自己評価の際、振り返りと共に目標を掲げてもらいその達成状況により賞与等に反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修の機会を設け資格取得の推進に努めている。様々な研修等の情報も随時提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	熊本市ブロック会やさえりあ火の君の研修に参加し同業者との交流に努め情報交換等を行っている。認知症実践者研修生を受け入れておりお互いの学びにつなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と話しをする中で不安な思いや要望などを伺い安心して暮らして頂ける様また信頼関係づくりにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	親しみやすい雰囲気づくりに努め不安や要望など家族の思いに耳を傾け信頼関係が築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は必要なサービスの見極めを行い法人全体のサービスやその他のサービスについても視野に入れた対応に努める。		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中、洗濯物干しやたたみ、簡単な掃除等職員と一緒に支え合いながら家族のような関係づくりが出来ている。本人の能力を最大限に生かせるよう自立支援に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは日頃から常に連絡を取り合い情報交換を行い共有を図っている。家族とのふれあいのひと時が多く持つよう支援行っている。体調に変化ある時は、家族に報告し情報共有し早期の対応に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元同僚や近所の方、友人従姉弟など馴染みの方々に気軽に立ち寄って頂ける様、声かけ行うと共に雰囲気づくりに努めている。友人と一緒に入居前によく行かれていたカフェでランチを楽しまれる事もある。	友人が迎えに来られ、墓参りや行きつけのカフェでランチを楽しまれる利用者もおられる。その他に元同僚の訪問などもあり、それぞれにとっても良い関係が続いていると思います。事業所は、面会の際にお茶やお菓子を出して、関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルやソファの座席が良い関係で過ごせているか、不穏にはならないかを常に見極め会話が弾み楽しく過ごせるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された方については退所後も家族と連絡を取り合い情報を得ており今後必要であるサービスについては法人全体の取り組みとして相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や利用者様には出来る限り声かけ傾聴に努め自分の思いを伝えやすい雰囲気に対応している。「そっと寄り添うケア」を目指して対応している。	家族からの情報や生活歴また日々の係わりの中で、利用者が見せる表情や言動をもとに、思いや意向の把握に努めている。職員からは、コミュニケーションを図った上で気持ちの聞き取りを行っていること、態度や表情からも察するようにしていると話が聞かれた。	

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人との会話の中から生活歴などについて情報を得ている。又家族や知人の面会時にお尋ねしたり会話の中から情報を得ている。以前、関わりのあったケアマネジャー等からも情報収集を行い把握に努めている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>お一人おひとりの性格や体調を把握し出来る事、出来ない事を見極め穏やかにその人らしく過ごして頂くために他者との関係も考慮しながら支援している。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意見・要望を伺うと共に主治医や看護師の意見も取り入れ介護計画書を作成している。</p>	<p>家族からの要望や意見の聞き取りについては、主に面会時を利用して行っている。全家族が市内在住との事で、面会は結構頻繁に行われているようである。モニタリングについては3カ月に1回、管理者と担当者で行っている。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録や申し送りノート、職員間の会話の中から情報を共有し介護計画書の見直しを行っている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>お一人おひとりの生活状況を見極め、希望も聞きながら法人内の事業所や他事業所と連携を図り、協力・調整を行いながら出来る限りその方に必要な支援に努めている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の方々とのふれあいを大切にし、いつでも訪問して頂き楽しく過ごせるよう支援している。又地域の行事にも出来るだけ参加を行い地域の方とのふれあいを行っている。受診、買い物も地域の方とのふれあいの場となっている。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が選ばれた病院にそれぞれ受診されている。協力病院とは常に連携を取っており、早期の対応が出来る。協力病院以外の病院とも必要に応じて情報交換を行いながら対応している。	本人。家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。毎月の定期受診は職員が付き添っている。家族が付き添うような場合には、日頃の状態をメモにして渡したり、口頭で説明したりして適切な医療が受けられるよう支援している。また、協力病院とも連携が取れており、先生の意向もあって、早期の対応を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、バイタル測定の様子観察に努めており日常生活の中で体調不良などちょっとした変化に気が付いた時や情報はすぐに看護師に報告相談を行い適切な対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医や看護師、ソーシャルワーカーと相談しながら情報交換を行い早期退院に向けて支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や病状が重度化した場合、当グループホームでできる事、法人内でできる事を説明し、出来る限り希望・要望に沿った支援が出来るよう医療機関とも相談しながら対応している。	重度化した場合の対応としては、事業所が出来ることを説明した上で、協力医と密に連絡を取り、早期の対応を心掛けている。食事の摂取が難しくなった場合などは、医師との相談の上、入院の手続きを行っている。現在、看取り支援については考えていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に慌てず対応できるように定期的に研修会に参加したり勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と水消火器を使って消火訓練を行っている。1回は地域の消防団の皆様と近所の方にも参加して頂いている。3月18日に実施予定。	年に2回、火災避難訓練計画書を提出の上、利用者も一緒に訓練を行っている。夜勤を行う職員が主体となって実施しており、区長や消防団員の協力も得ている。消防団とはすぐに連絡が取れるよう、団長との連携も取れる様にしている。訓練後の消防署からの講評では、排煙窓の開閉を指摘されることもあったが、腰をかがめ鼻と口にタオルで覆うなどの対処方法は良かったなどの参考になる意見を頂いている。	夜勤を行う職員からは、防災設備の確認やサービスに入る前に戸締りを確認するなど、心構えについて話があった。防災アドバイザーは緊急事態に遭遇すると、訓練以上の力を発揮することは不可能と言っています。今一度、訓練に取り組む姿勢の再確認と、想定外にならない取り組みをお願いします。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人生の先輩である利用者に対し尊敬の気持ちを忘れず思いやりのある対応を心掛けている。「常に相手の立場になって」を念頭に支援しています。</p>	<p>理念にも謳われているように、利用者本位、常に相手の立場になって実践することが、取りも直さず人格の尊厳に繋がるという話があった。職員からは、言葉使いや分かりやすく話をしてあげること、口調に気をつけること、笑顔を絶やさず接することだと思いと話が聞かれた。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>声かけ傾聴に努め、希望要望を聞きながら本人の意思を大切に自己決定できるように努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来る限りその方の生活習慣に合わせ、起床時間や食事の時間もその方のペースに合わせた対応に努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>本人の意思を一番に対応している。自分で選ぶ事が難しい方においては職員と一緒に選んだり職員が選んだものを確認して頂いている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お一人おひとりの「食べたい」「したい」という意欲を大切に尊重し外食や家事参加の支援を行っている。</p>	<p>現在、食事の介助が必要な方が1名おられる。食事形態については、おかずを食べやすい大きさに切ったりトロミをつけたり、ミキサー食にしたりと、個別対応を行っている。その他、お菓子や果物などの好物を取り入れた支援を行ったり、年に何回か回転寿司などの外食にも出かけている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>日中、夜間共に水分補給に努めており、お一人おひとりに合わせた食事形態を提供している。安全においしく食事が出来るよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、声掛けにて口腔ケアを実践して頂いている。必要に応じて一部介助を行っている。尚、口臭予防と風邪予防を兼ねてお茶による嗽を行っている。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの状態に応じリハパンツや尿とりパットを減らす事が出来るよう心掛け、行動、言動等のサインを見逃さないよう観察に努めている。トイレで一連の動作は出来る限り自分の力を使って頂くよう支援を行っている。	現在、ほぼ自立の方が2名、他の利用者もほぼ尿意や便意がはっきりしており、1人を除いて一部介助での支援を行っている。利用者の中には、入居時車イスだった方が自立歩行になりリハパンから布パンツに改善した例もある。職員からは、排泄の声かけは耳元で行い、他の利用者に気付かれないようにしているという話が聞かれた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め出来るだけ薬に頼らず野菜など食物繊維を多く摂って頂いたりヨーグルトを提供している。尚、体操をしたり腹部マッサージを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴して頂いている。入浴拒否の利用者様には対しては時間をずらす、職員を交代するなど臨機応変に対応している。	入浴の回数は週3回を予定している。お湯については、1人入浴する度に半分程度入れ替えている。見守りや介助については、同姓でないとダメな方は現在おられないが、入浴拒否の方はおられるようである。その方の場合には、時間を空けて声かけしたり、職員が変わって対応したり、薬を塗るからと声かけしたりといろいろ工夫している。ただ、決して無理強いしないようにしている。職員からは、転倒防止や体の観察などに配慮しているという意見が聞かれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの身体の状態やその時の状況に応じて休息して頂くと共に室温調整、寝具調整、衣類調整に努め快適に過ごせるよう支援している。又、安心につながるような優しい声かけに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの内服説明書を個人ファイルにとじており確認しやすいように対応している。症状変化ある時は主治医に相談行い早めの対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣の中で家事手伝いの役割を持つことによる張り合いを持たれている。カラオケを好きな方、合唱が楽しみな方、コーヒーを飲むことが楽しみの方等、それぞれに楽しく過ごして頂ける様支援している。		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>お天気の良い日は近所を散歩したりスーパーへ買い物に出かけたりドライブに行ったり気分転換に努めている。季節折々に地域のボランティアの方にも参加して頂き花見やミカン狩りに出かけている。</p>	<p>通院が複数人一緒になる場合などは、少し遠回りしてドライブするなど支援している。また天気の良い日には近所を散歩したり、近くのスーパーに買い物に出かけたり、ドライブを計画している。</p>	<p>事業所はのどかな田園地帯にあり、自然環境に恵まれています。気候がよく、天気の良い日には出来るだけ戸外の空気を吸い、気分転換やストレス発散に努めて欲しいと思います。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人が希望される方においては3千円まで所持して頂いている。他のほとんどの方においては、預り金があり必要時は使って頂くことが出来る。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙のやり取りや電話は自由にされている。電話もかけたり掛かってきたり出来る限り自由に支援している。携帯電話を持参されている方もいらっしゃる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>高気密高断熱、地熱を利用した建物であり年中、室温が23～4℃に保たれており日中は自然の光の中で過ごされる様採光に工夫している。トイレには分かりやすい文字での表示にて混乱なく過ごされている。</p>	<p>事業所は高気密高断熱の建物で、地熱をエネルギー源とした空調を利用しており、室内温度は年間を通してほぼ一定になっている。この冬もとても冷え込んだ朝でも室内の温度は19℃であったそうです。また、室内の空気環境の浄化にも努めており、消臭や花粉、ウイルス除去のために薬剤噴霧器を接している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事の席は決まっているが、その時の状況で臨機応変に対応し安心して心地よく過ごして頂けるよう支援行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不安を取り除くように使い慣れた家具や寝具を持参して頂くことで安心して居心地の良い生活が出来るよう支援している。</p>	<p>居室の基本的な設備は、ベッド、空調となっている。寝具やタンス、その他日用品などは、出来るだけ使い慣れたものを持ってきてもらうよう指導している。テレビやフォトスタンドなどを設置し、居心地良く過ごせるよう部屋づくりを行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はバリアフリーになっており居室入口にはネームプレート、トイレには目印を掲示することで混乱を予防し安心して過ごせるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない